

第6節 廃棄物

高度成長を遂げた日本では、高度化とともに、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄型社会により、廃棄物の種類は多様化、量は増大し、環境への負荷が大きな問題となって現れています。

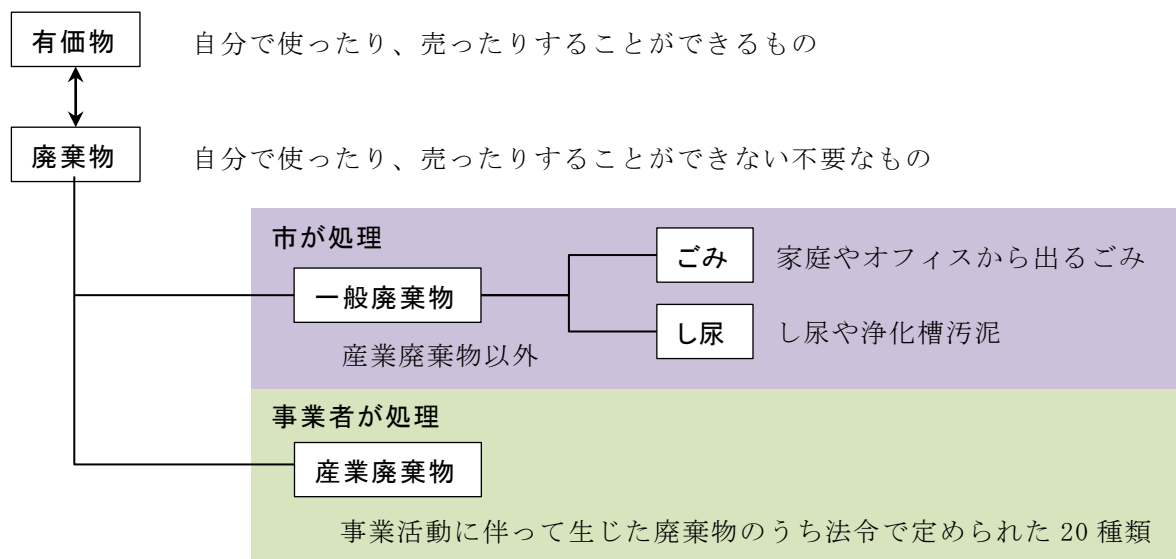
このため、廃棄物の発生を抑制し、使用済み製品の再利用、再資源化するなどの対策が急がれており、東広島市では、これまでも廃棄物の発生抑制・リサイクルに積極的に取り組んでいます。

廃棄物を減らすためには、事業者、工場がとるべき対策に加え、市民のごみの分別収集、リサイクルなどのさらなる協力が大切です。

1 廃棄物の概要

廃棄物とは 廃棄物とは、自ら使用できなくなったり、他人に有償で売却できないために不要になったものをいいます。

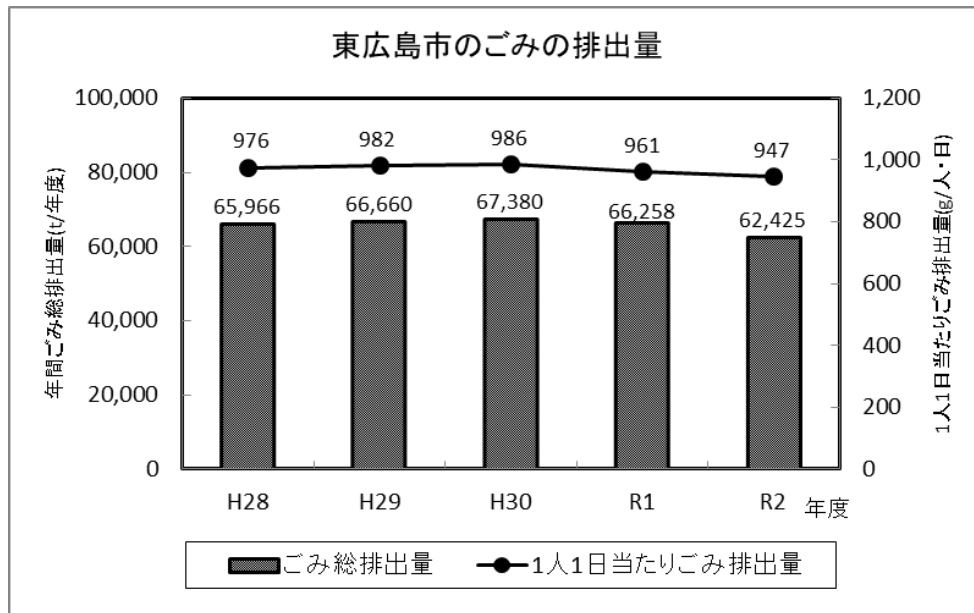
廃棄物は一般廃棄物と産業廃棄物に分類され、その処理は一般廃棄物については市の責任、産業廃棄物については事業者の責任とされています。



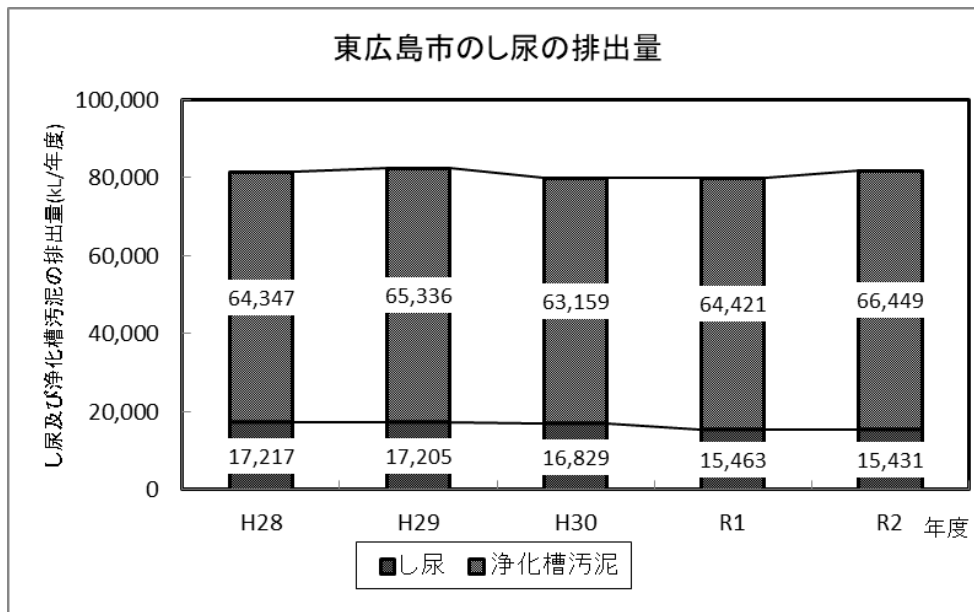
2 廃棄物の現状

ごみ排出量 令和2年度に東広島市から排出された一般廃棄物の総量 65,318t のうち、ごみとして処理されたものは 62,425t でした。

排出された一般廃棄物の総量を1人1日当たりに換算すると、947g/人・日となり、令和元年度に比べ減少しました。



し尿・浄化槽汚泥 令和2年度に東広島市で排出された一般廃棄物のうち、し尿及び浄化槽汚泥の排出量は 81,880kL でした。



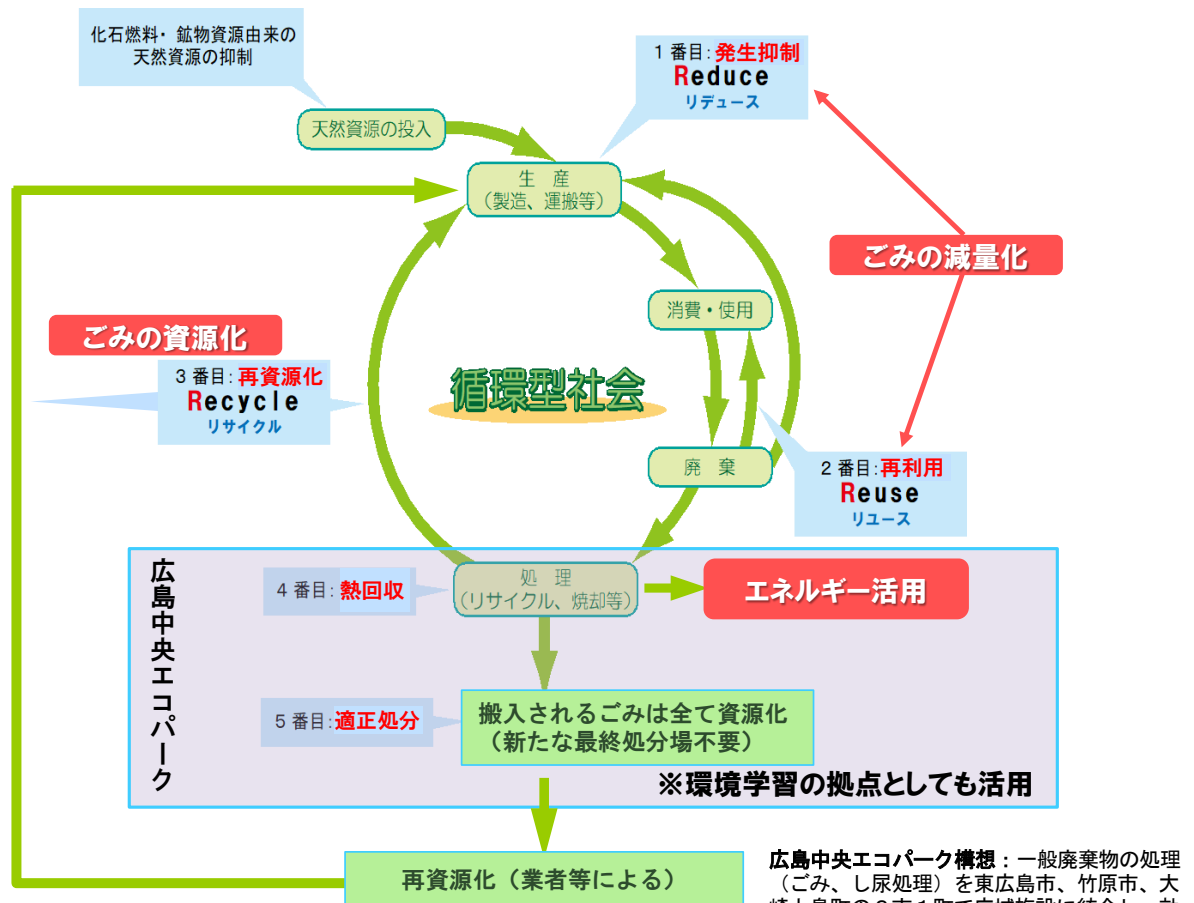
3 廃棄物の減量対策

3R の推進 廃棄物を減らすためには 3R を進めていく必要があります。3R とは、廃棄物の発生抑制（リデュース Reduce）、再利用（リユース Reuse）、再資源化（リサイクル Recycle）のことで、まずリデュース、次にリユース、最後にリサイクルを行い、廃棄物を減らすことが大切です。東広島市では、公共施設に古布・古着や使用済小型家電の回収ボックスを設置したり、市民向けに廃棄物の減量についての出前講座の開催や、生ごみの水切りグッズを配布するなど、廃棄物の減量化に取り組んでおり、最終処分（埋立）量ゼロのまち、ゼロエミッションシティを持続してまいります。

廃棄物減量のために必要な3Rの取り組み

区分	市民の取り組み	事業者の取り組み
発生抑制 (Reduce)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物袋を持参してレジ袋を断る。また、過剰包装を断る。 ・ 生ごみはしっかり水分を絞って捨てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ できる限り商品の包装と梱包を簡素化する。
再利用 (Reuse)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買ったたりもらったりしたが使わないものは、バザー等に出し、必要なものと交換する。又は必要な人に譲る。 ・ リターナブル容器や詰め替え製品を選び、使い捨て商品を選ばない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場での分別と再利用を進める。
再資源化 (Recycle)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源ごみは、市の分別区分に従って、収集に出すことを徹底する。 ・ 各地域で発生した資源物は、集団回収等により資源化する。 ・ 牛乳パック、白色トレイ等はスーパーの店頭回収に協力する。 ・ 調理で出た生ごみを堆肥化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再生品を積極的に採用・使用する。 ・ 廃棄物の適正な処理と資源化を推進する。

ゼロエミッションシティのイメージ図



市民一人ひとりが協力して3Rを推進し、最終処分（埋立）量ゼロのまち、ゼロエミッションシティを持続するんだポン。